

# 「農業」 × 「福祉」 で北区を元気にしたい

## NPO法人 きたベジファーム（神戸市）



### 経緯

- ・神戸市北区では2012年から農福連携や農産物加工などを行う事業所が集まり、福祉事業所の利用者の工賃アップと地域農業に貢献する「きたベジねっと」という農福連携プロジェクトが始まった。
- ・しかし、受託作業を抱えている福祉事業所が農業に取り組むことは、専門知識が必要で肉体的にもきびしいところがあり、支援員の負担も大きいことから、農業生産に携わる事業所が減少してきた。
- ・そこで、北区の農福連携を盛り上げるため、農業専門の就労支援事業所の開所を目指して2018年にNPO法人「きたベジファーム」を設立。そして、2020年に就労継続支援B型事業所「きたベジふぁーむ」を開業した。

### 取組内容

- ・約1haの農地を借り受け、ハウスと露地栽培で農薬や化学肥料に頼らずに約30種類の野菜を栽培。また、ハウスで原木しいたけを栽培。直売所と道の駅で販売している。
- ・北区には「二郎（にろう）いちご」という市民に人気のいちごの産地があるが、高齢化が進み人手不足であるので、作業を手伝ってもらえないかと依頼を受け、8軒の農家から定植前の準備や収穫後の片づけ等の作業を請け負っている。
- ・現在、利用者15名と支援員6名が農作業に従事しているが、当事業所の利用者は、室内よりも屋外を好み、もともと農作業が好きな人が多い。季節の移り変わりを感じながらいきいきと働いている。

### 今後の展望等

- ・分散している農地を一か所に集めたい。作業に向かうための移動時間が短縮でき、利用者と支援員の配置がしやすくなり、作業効率が上がる。
- ・農業にくわしい支援員を増員し、農業に従事する事業所として規模を拡大したい。
- ・有機JASの認定を取得したい。値段設定を上げて売上を伸ばすことにより、工賃向上が期待できる。
- ・作業時間は真夏でも9時から16時までなので、共同生活をおくるグループホームを作り、送迎時間を省くことにより真夏の作業を朝・夕にしたい。